

# 北アルプス山スキー

2002.5/3~6

## 双六へ白きオートルート見極 三俣蓮華岳



薬師岳



黒部五郎岳



オートルート後半

白きオートルート見極  
今回の北アルプス山スキーツアーは、2年前に立山～槍の夏山縦走をして以来、憧れの白きオートルートを見定めたく双六へ入山と決めていた。ついにその願かない白き山々のルートをはっきりと見定めることができた貴重な体験であった。



三俣蓮華岳山頂にて

### メンバー

大塚賢一 47才  
石野美輝朗 53才  
大倉康治 42才  
望月 証 30才  
岸本陽介 29才

## 行程

### 3日 晴れ

新穂高-ワサビ平-大ノマ乗越-双六キャンプ着 15時56分

### 4日 嵐

夜中から嵐のため停滞、小屋で一日中植田さん達と飲む

### 5日 晴れ

モミ沢-矢助沢-三俣蓮華-双六岳-双六キャンプ場、滑降高低 1480m

### 6日 晴れ

双六キャンプ場-大ノマ乗越-ワサビ平-新穂高、滑降高低 1150m

## 共同装備

6人用ダンロップテント、スコップ、スノーソー、20m×8mmロープ、ランタン、ビール1ダース

## 個人装備

山スキー装備一式、雪山装備一式、8環、スワミベルト、ピナ、食料ジフィーズ6、ラーメン3etc (各自20kg強)

## 2日

22時半に姫路出発、加古川経由で少々の渋滞の中、新穂高着6:05。

## 3日 快晴

6:05 1100m新穂高着

ドン詰まりの蒲田川沿いの路肩に駐車する。

出雲の植田4人パーティ、今岡夫妻はすでに着いて準備をしていた。さすがにメジャーなルートだけあって老若男女で一杯である。中でもやはり山スキーヤーが多いようだ。

6:50 スタート

雪解け水の轟音にも負けずに小鳥たちが朝の挨拶を交わしている。重装備を背負ってブーツを履いてスタート。私は腰に悪いので最初か



ぶな林に囲まれてひたすら大ノマへ



巨大なスノーブリッジ



大ノマ乗越は遙か向こうだ

らスキー&ストックを両手に掲げている。

8:25 1402m ワサビ平小屋  
到着 装備変更シール

雑木林からブナの大木に変わり周りに雪が見え始めるころワサビ平到着。

ここからシールを付けてブナ林の遙か前方に見える大ノマの大カールを目指して真っ青な青空の下をみんな元気に進んでいる。所々にデブリが山となっていてその下りでもまだ慣れない大倉さんとモッチャンが大転びである(つらそう)。

9:25 危なっかしいスノーブリッジを渡る

周りは巨大な雪溪の下をゴウゴウと雪解け水が流れている。

9:36 1525m

だんだんと大ノマの巨大カールに近づくにつれて脈も息も荒くなってくる。

10:03 1710m 小休止

西にとんでもない急斜面にそそり立つ抜戸岳、東に紺碧の空に猛々しくそそり立つ槍穂高連峰、絶好のロケーションの下で小休止。みんなこの景色に大喜びである。



槍ヶ岳をバックに陽介と大倉さん

11:36 2180m 小休止

40分ほど早く出発した植田、今岡パーティーにやっと追いつく。

ここから急斜面の核心なのでみんなアイゼンに装備変更だが私と植田氏は頑張ってシールで登り切ってしまう。

13:02 2450m 大ノマ乗越 着 滑降

大パノラマであると、言いたいが残念ながら槍穂高方面はガスがかかってきた、また南に見える乗鞍岳も見えない、唯一は西に見え隠れする黒部五郎岳だけである。

ここから、再び植田両氏と別れる、彼らパーティーは弓折岳経由で稜線歩きである。我々はここから双六谷に突っ込む。

出だしは40度ぐらいの急斜面であるが雪が程良くザラメ状態でなんら問題はない。いつものように私がトップで奇声を上げて突っ込み、下からみんなのビデオ撮影である。陽介はさすがにうまくショートターンでカッコイイ。大倉さんはビールのザックの重み



出合いはデブリだらけ

でどうもコントロールが難しくターンのきっかけが定まらず暴走である。モッチャンもザックに振られて七転び八起きである。石野氏は転びながらもリカバリーが早くデブリの上もカッ飛んで行く。

双六谷に近づくにつれてすり鉢状のように狭くなって、おまけに落石もありで切り返しがなかなか困難になってくる。

13:45 双六谷出合い 装備変更シール

踏ん張りが強烈なために両足ともパンパンで太股が悲鳴を上げている。しかし、大倉、望月の両氏はもっとつらかっただろう(お疲れさん、本日の滑降終了です)

14:10 シール登行開始

ものすごくいい天気なので脱水になりながらも一步一步足を運ぶ。

14:56 小休止

スノーブリッジの下からおいしそうな雪解け水が流れていたの、みんな一同にザックを降ろして喉をうるおす。その時、弓折岳付近のものすごい急斜面から二人の山スキーヤーが降りて



今岡夫婦と植田パーティーと合流



双六キャンプサイトはもうすぐだ



双六谷と双六岳



急斜面にビビるモッチャン



テン場作りに力を振り絞る



設営完了!



テン場から笠ヶ岳を望む

いるのが見えた。とんでもない急斜面なので滑降とは言い難く、横滑りで降りているといった感じである、今にも雪崩れを誘発しそうでハラハラものであった。

### 15:56 双六キャンプサイト着

途中で石野、大倉両氏に置いてけぼりを喰ってしまっても何とか到着。山でこんなにも疲れてしまったのは久々である、大ノマの大カールでシールで無理して登ったのがこたえたのであろう、また行き寝不足運転がたたったのであろう(>\_<)。

テント、スコップ、スノーソー一式は我々が装備しているのでその辺にキャンプを張るにたかっただけである。

### 16:45 テント設営完了

しんどいとは言ってられないのである。これからまだ大仕事が残っている、スコップとスノーソーで雪を掘り返し雪ブロックを作りやっとの事で設営完了。そうこうしている途中に植田、今岡パー

ティーが双六にたどり着いた、彼らは小屋泊なのでラクチンである。

### 17:30 晩餐会

これから双六岳に登り滑ろうと言う気持ちはみんな疲れ果てていた。風も出てきて雲行きも怪しくなってきたので真っ赤なテント内で体がかがめて貴重なビールでカンパ〜イ!。出るわ出るわ、みんな色々な肴とおつまみが・・・。明日の天候を祈りつつ20時半には爆睡状態であった。

### 4日 暴風雨



小屋で一日無料で待機

行動予定では早々にテントを撤収して黒部五郎無人小屋まで移動であった。しかし昨日同頃たどり着いた学生パーティーはこの視界悪い中をテント撤収してスキーを担いで移動していた(とんでもない行動である、真似はしたくない)。

昨日の祈りも叶わず夜中からものすごい強風と雨に見舞われテント内はグシャグシャで水も

溜まっている。石野氏はゴアでは無いために悲惨そのものであった。その点ゴアは水が溜まっても中に浸透してこない、さすがである。

早々に朝食を済まし、酒や肴を持って小屋に逃げ込む。植田氏の部屋に入り込み外の暴風雨とは裏腹に部屋内は和気藹々として飲むワ食うワで早々から晩餐会?の始まりである。大倉氏のご機嫌で手当たりしだいに若い姫君に声をかけていた、埼玉や大分からも来ていたのには驚きである(明るる日は何も覚えていなかったが・・・)

ビュービューと吹きすさぶテントに戻り再び明日の天候を祈りつつ21時ごろ就寝。

## 5日 雨 / ガス / 晴れ

5時頃起きたが、石野氏は寝れネズミになってしまっていて夜明けと共に小屋に逃げ込んでしまう（はやり20年前の装備はダメやで〜）

6時の天気予報では全国的に晴れと言っているがここだけはまだガスと雨である。

7時過ぎ、今岡夫妻は明日が仕事とあってこの悪天の中を下山していった、下山ルートは我々が来た双六谷経由のほうがトラバース気味に滑降すればすぐなので注意点を説明する（ああ可哀想に、彼らは小屋に泊まりにきただけである）

### 8:05 天候回復

雨も上がってきたのでテントに戻り遅い朝食を済ませている内にガスも晴れ渡ってきた。今岡夫妻は今頃大ノマのカールを大滑降している頃だろうか・・・。

### 9:07 行動開始

昨日の雨で予定が大きく乱れてしまったので、今日はテントをそのままにして、サブザックで行動開始とする。ルートは縦沢岳を登って、モミ沢を湯俣川まで滑降し、弥助沢を登り詰めて三俣蓮華の小屋を経て三俣蓮華に登り、丸山をトラバース気味に双六岳に登り、テントサイトまで滑降である。



縦沢へ飛び込む



湯俣川沿いをトラバース



縦沢岳より滑降する私

縦沢岳に登り始めるころ、植田パーティーが縦沢岳西斜面より滑降してきた。彼らは今日下山である。

### 9:47 2610m 縦沢岳滑降

素晴らしい景色である、一体つい先ほどまでの天気はなんだったんだ？と、思わせるほど急速に回復して360度の大パノラマであ



弥助沢の核心部、蓮華山荘はすぐそこだ

る。植田パーティーが双六岳に登っている、彼らはそこから双六谷に滑降し大ノマ乗越へ・・・。

雪質は雨が降るくらい気温も高いので早朝にも関わらず程良く緩んでいて急斜面にも突っ込んでいける。陽介を先頭にビデオを回すが、モッチちゃんが「どこまで滑るの？」、「もう、さっき言ったやんかっ！、かまわず陽介に続け〜」と私も昨日のストレスを早く発散したく怒鳴ってしまう( \_ ; )。

サブザックなのでみんな快調にブツ飛ばしてそれぞれに奇声を発しながら快調にカッ飛んで行く。

### 10:09 2055m 湯俣川出合 装備変更シール

だ〜れもない広大な白いキャンパスに思い思いのシュプールを描きながらアツという間に湯俣川出合である。しかし昨日の双六山荘にいたあの大人数は一体どこへ行ってしまったのだろうか？

### 10:42 2150m 弥助沢出合 シラビソ原生林の中をシール

登行。落ちれば湯俣川にドボ



ンツのところをトラバースすると、三俣蓮華岳が前方に見えてくると弥助沢の出会いである。その沢をどんどん登り詰めると後ろを振り返れば樞沢岳の後ろに黒い岩峰群の槍ヶ岳を筆頭に西鎌尾根、穂高連峰が青空に猛々しくそびえ立っている。

11:25 2300m 装備変更アイゼン

斜度もシール登行ギリギリになってきたのでアイゼンにそび変更してスキー引っ張りで三俣山荘へと登り詰める。

12:15 2535m 三俣蓮華山荘着 大休止

槍ヶ岳をバックに三俣蓮華山荘へ



遙か遠くに剣岳

三俣蓮華岳からはすごい量のシュプールが見える、多数の人は我々と逆コースをとっているようだ。遙か下の湯俣川のほうを見ると、ゴマ粒のようにスキーヤーがうごめいている。

まだここでは黒部五郎岳は見えないが、360度のパノラマには違いない。正面に鷲羽岳、ワリモ岳、祖父岳、その奥に水晶岳、南にはスタート地点の樞沢カール、そして穂高連峰・・・最高の天気恵まれた、昨日の天気がウソのようだ。

13:30 三俣蓮華岳へ登行開始シール



槍をバックに三俣蓮華へ登行開始



槍を正面に丸山のヤセ尾根をトラバース



黒部五郎を正面に双六岳へ登行

13:59 2841m 三俣蓮華岳着

やっと、念願の白きベールを着飾った全オートルートが見渡せた。遠くは剣岳、立山連峰から、薬師岳、黒部五郎が、すぐそこに見えるではないか！このスキー縦走をすべく常日頃からトレーニングをおこたらず、スピード登山を中心に悪天でも地元の山に入山してルートファイを勉強してきたのだ。2年前の夏山縦走のときとは大違いで天候さえよければ簡単にスキー縦走できそうな感じに思えた。しかしその時でもガスに泣かされたのだから今日にみたいに完全に晴れ渡っていいことはまずないだろう。

今朝はあの黒部五郎のカールを大滑降しているはずなんだが・・・やはり天候には勝てない。

14:16 大滑降

三俣蓮華岳2841mからの大滑降の始まりである。ビデオ撮りもそこそこに気分がハイテンションになり急斜面をドロップイン、6回ほどジャンプターンを繰り返し丸山の東斜面をトラ

バース。陽介は雪庇から大ジャンプでドロップイン、カッコよく決まっている。

#### 14:25 ヤセ尾根をトラバース

丸山 2854 m の東に張り出すヤセ尾根をトラバース。ここから湯俣川までの急斜面を一気に大滑降してもたいへん面白いだろう。ホントに時間と体力さえあればどこでも素晴らしい滑降が出来る大自然のゲレンデである。

ここで昨日の悪天の中を黒部五郎小屋まで行った学生パーティーに追いつく、彼らはやはり今朝黒部五郎の大カールを滑降してきたと言っていた、しかしヘルメット着用の重装備にだいぶへばっていた。

#### 15:24 2860 m 双六岳着

丸山から双六岳の巨大カールの下をトラバースし、途中でシール装着で双六岳の広大な北東斜面を我らがパーティー独り占めでみんなバラバラにジグを切って登行して行く。いつも思うのだが我々は山岳クラブではないのでどうも登りになるとトライアスロンで身に付いた競技意識が出てくるみたいで遅れた者を待とうとせずに、ウムも言わず黙々と登っている、また一列縦隊とはほど遠い。

言わずとも360度の大パノラマであるが、ここから見る笠ヶ岳 2897 m はまるで富士

山の上半分のように非常に素晴らしい。しかし、双六岳の馬の背は風が強いのか全く雪が無いにはおどろきである。

ここから西斜面に滑り込んでトラバース気味でキャンプサイトに行ってもいいのだが3日に双六谷から登ってくるときには、もう下の方は雪が切れていたのを確認しているので昨日の雨でもっと露出しているだろうと思い、馬の背を少々担いで歩き、東斜面を滑降することにした。

#### 15:48 双六岳滑降

東斜面も雪切れ激しく、20mほどハイマツを横切ること。しかしそれを過ぎるともうそこはキャンプサイトまでの大滑降だ！。ビデオ撮りも忘れしまって一気に急斜面を滑り込んだ。ここでベテラン陽介が大転倒（ビデオを回しておけばよかった）

#### 16:55 最後の晩餐会

今日は風もなく素晴らしい天候に恵まれて感謝の気持ちを込めて北アルプス山スキーツアー最後の雪上晩餐会である。

狭いテントと違い白き山々に囲まれてのコップ一杯のビールは最高のウマサである。ちなみに山小屋のビールは4日の雨の日ですでに売り切れとなっていたのにどうしたことか大倉さんが500mlの缶ビールを隠し持っていた？の



双六岳より笠ヶ岳方面



双六岳より穂高連峰



双六岳より滑降



雪上晩餐会

には一同驚きであった。

今回の最後の山スキー談議にはやはり我々が姫君の恵ちゃんの話  
が「彼女でも十分に行動出来る範囲やのになんで来なかったんや～」  
の連発であった。

6日 晴れ

5:00 起床

朝から雲一つないドピーカン日和りである。朝食も同じく雪上で済  
まし、シュラフや濡れ物をハイマツの上で乾し、テントも裏返しにし



重い荷物で下山開始だ！

て乾して下山準備にとりか  
かる。テントの場合は入山下  
山日が晴れなのが本当にあ  
りがたいものである。

7:50 下山開始 滑降

双六谷を大ノマ乗越の出  
合いまでを斜滑降気味にカ  
リカリに凍り付いた雪面を  
エッジングしながら一気に  
滑り降りる。しかし、北アル  
プスに入山して初めてのカ  
リカリ雪面に重いザックを  
背負っての滑降はむつかし  
く、石野、大倉、望月の3人  
はコントロール不能で硬い  
雪面と抱き合っていた。

8:15 大ノマ乗越の出合  
装備変更アイゼン

登りはあんなにしんど  
かったのに、アツと言う間に  
出合いまで来てしまった。ポ



双六谷に飛び込む



大ノマ乗越しにて

コボコのデブリの中で装備変更  
アイゼン・スキー引っ張り、いつ  
ものようにそれぞれバラバラで  
我々より早いパーティーを抜か  
しながら黙々と登っていく。し  
かし上を見上げればどのパー  
ティーもスキーザック固定をし  
ている（重いのになんでやる？）。

8:46 2450m 大ノマ乗越着



大ノマカール大滑降

朝一番の運動はさすがしく、  
登り詰めれば穂高連峰や乗鞍岳  
が迎え入れてくれている。20人  
くらいのパーティが休んでいた。

9:02 大滑降

他のパーティはまだ誰も出よ  
うとしないので、私が戦陣を  
切ってドロップイン。いつもの  
ように下からビデオを構える。  
雪は程良く緩み申しぶんない。  
しかしこのカールは荒れていて  
ボコボコで滑りやすいとはい  
いがたかった。大倉さんは雪上暴  
走族と化しすごいスピードであ  
る。モッチちゃんは切り返すタイ  
ミングがどうも遅れるようだ。

9:48 1490m 左俣林道出合  
着



大ノマカールを後にして

高低差1000m、登りは3時間

半もかかったのに下りは1時間もかからない。

出会いに着く頃にはどこをどう滑って行こうかとデブリの中で右往左往である。

10:32 1402m ワサビ平小屋 装備変更担ぎ

雪溪の流れ出る水で喉をうるおし、ここから少々担ぎもあったが私は出来る限り板をはいてとぎれとぎれの雪を求めてなんとかワサビ平小屋に到着。

11:25 1100m 新穂高到着

今回の山スキーツアーを一つ一つ思い出しながらブナやシラビソの林道を歩いているのも気分がいいものである。

標高も下がり周りの山々は雪化粧を落とし、あでやかな緑をまといもう春一色である。

帰りは、笠ヶ岳が展望できる平湯温泉で体を癒し帰路に着いた・・・

20:30 帰姫

連休最終日とあって高速道路もスムーズに走れた、最も私、石野、大倉の3人はハイエースの後席で今回のビデオや洋画を見ながらだったので快適であった。運転してくれた陽介にモッチャんどうもありがとう。

・・・北アルプス山スキーツアーに余韻を込めてカンパイ！・・・



雲上の槍ヶ岳

PS.

### 今回を振り返って5人のコメント



私>>>北アルプス山スキーツアーはいつきても雄大な山々にめぐり合えて心が洗練されます。なんと言っても今回は白きオートルートが見られたことが大収穫でした。



石野>>>20数年ぶりの北アルプスでしたが景観は変わらねど、入山者は変わったと実感しました、谷底へ滑りこむ豪快さは昔の山行では考えられない面白さでした。しかしテントキャンプの雨にたたられたのは小屋が無かったらと思うとゾッとします、やはり最新装備が必要だと思つづく思いました。



大倉>>>軟弱な者には出来ないものだと思つづく思いました。



望月>>>非常に楽しかったです。降りてきたら夢のような感じがしています、また行きたいです。



陽介>>>一日停泊したが、この最高の天気恵まれて気分爽快で自然のパワーをもらいました。